

◆経済倶楽部講演会第4405回（3月4日）

岸田文雄政権のコロナ危機対応と 「新しい資本主義」

政策研究大学院大学教授
竹中 治堅



- *強い権力持つ日本の首相
- *変容した日本の統治構造
- *弱まった派閥の力
- *強まる首相の人事権
- *首相直轄の政策立案組織
- *首相を付度する官僚
- *自由党系の布陣
- *ワクチンでつまずく
- *賃上げと安全保障
- *参院選は乗り切れる

柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、昨年につきまして政策研究大学院大学の竹中先生においでいただきました。1971年のお生まれで、東京大学法学部卒業後、大蔵省に入られ、その後、スタンフォード大学で博士号を取得されました。そして、その後現在の大学で教鞭を取っておられます。

今日は政治のお話ということで、この10日間ぐらいはもうウクライナの話で持ちきりでございますが、それはともかくとして、やはり日本の政治というものがここ何年かたいへん迷走しているわけです。世界のこういった大事なお話の中でも、日本の舵取りあるいはコロナについてもまだ完全な収束のメドが立たない。先進国でいちばん低成長というこの状況を打開するた

めに、日本の政治がどこへ行かなければいけないか、たいへん気になるところでございます。そういうことで、そういった政治の話を今日を中心にしていただけるということでございますので、竹中先生、よろしくお願いいたしたいと思えます。それではお聞きいただきたいと思えます。（拍手）

竹中 ご紹介ありがとうございます。理事長から非常に丁寧な紹介をいただきました。竹中でございます。日本政治を研究しておりますので、確かにこのところウクライナの戦争の話が多いわけですが、今日は岸田政権がどういふことをしようとしているのか、主に内政面を中心にお話しさせていただきますと思います。